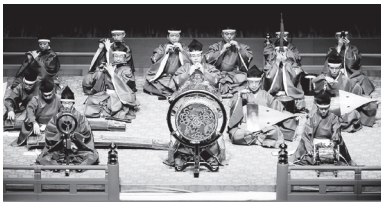


## 東京楽所 高山公演 『初春の雅楽』によせて

飛騨地方で初の雅楽公演が行われます。しかし、高山祭を始めとする祭り文化が盛んな飛騨地方でも、雅楽に対する馴染みは薄いと思われま

す。そこで、雅楽についての簡単な解説をします。

日本の雅楽は、大陸からもたらされた音楽や舞が、古来より伝わるものと融合し、十世紀ごろに成立した。かつては広く普及していたため、雅楽に由来する言葉は多く、「塩梅」「八多羅滅多羅」「打ち合わせ」「様になる(左舞が上達する)」「上手い(右舞)」「二の舞」「呂律」「二の句を継がない」などがある。雅楽においては、楽器のみの演奏を「管絃」、舞を舞うものを「舞楽」と呼ぶ。



「舞楽」を使用する楽器は主に八種で、三管の笙・篳篥(縦笛)・龍

笛(横笛)、三鼓の楽太鼓・鉦鼓・羯鼓、両絃の楽琵琶・楽箏である。特に三管にはそれぞれの意味が有り、笙は「天から差し込む光」を、龍笛は「天と地の間を縦横無尽に駆け巡る龍」を、篳篥は「地上にこだまする人々の声」を表すとされている。



舞には、唐伝来の「左方舞」、高麗伝来の「右方舞」を始め、仮面を被らず武器を持たない穏やかな「平舞(文舞)」、武器を持ち勇猛な仮面を被る「走舞」や「武舞」、童子の舞う「童舞」、女性の舞う「女舞」などがある。

衣装は、直垂(武家の装束)が多いが、衣冠(宮中での勤務服)又は狩衣(公家の普段着)が正式な衣装である。曲によっては、これに仮面を被って舞う。

東京楽所とは、宮内庁式部

職楽部のメンバーを主体とし、芸術音楽としての雅楽演奏を目的として活動する、我が国最大の雅楽集団です。今回の公演においては、管絃として「平調音取」

「越天楽」「陪臚」、舞楽として「陵王」「落躑」を披露します。なかでも陵王は、舞楽・面舞の一番人気の作品で、源氏物語に登場したり、様々な地域に残される陵王面、装束

の美しさ、舞様の奇想天外な動き、楽しい物語は舞楽の定番とも言えます。文化の薫り高い飛騨だからこそ、今回の公演は必見だと思います。

高山市文化芸術鑑賞事業

## 初春の 東京楽所 雅楽



### 第一部 [管絃] 楽器紹介

- 平調音取(ひょうしょうねとり) ○越天楽(えてんらく)
- 陪臚(ばいろ)

### 第二部 [舞楽] 装束紹介

- 陵王(りょうおう) ○落躑(らくそん)

〈東京楽所とは〉宮内庁式部職楽部のメンバーを主体とし、芸術音楽としての雅楽演奏を目的として活動する、わが国最大の雅楽集団です。

平成25年 2月9日(土) 午後6時開場/午後6時30分開演

こくふ交流センター さくらホール(JR飛騨国府駅前)

チケット (一般)2,000円 [メセナメイト] 1,700円

全席指定 [ジュニア]18才以下 500円 ※未就学児は入場不可

発売日 12月8日(土)メセナメイト先行発売:午前10時より、一般:午後1時より

○ネット受付は午後1時より

販売所 高山市民文化会館・国府社教窓口(こくふ交流センター2F)・飛騨市文化交流センター

○主催 高山市 / (社)高山市文化協会

○問合せ (社)高山市文化協会(TEL.0577-34-6550) / mail@takayama-bunka.org



道伝えの日 芭蕉忌句会 ● 入賞句発表

◎一般の部

兼題句「紅葉」

互選の句

【天位】 該当なし

【地位】

絡み合ふ人間模様薦紅葉

北川登志子

手鏡に鬼女の影見ゆ紅葉山

栗田美由紀

祭り子の草履に鈴や初もみぢ

伊藤 浩子

【人位】

老いてなほ三叉路ありぬ夕紅

黒川みつ恵

小鳥幸男選

【特選】

紅葉山掌で呑む水の味

渡瀬 教子

継ぎ惑ふ子を連れ歩りく山紅

山本 史子

祭り子の草履に鈴や初もみぢ

伊藤 浩子

【佳作】

より添えば櫻紅葉の声のする

荒井美和子

鞍ヶ嶺も天を支えし照紅葉

中家 富枝

草紅葉地を這ふ風に犬まろび

池村とみ子

紅葉狩白髪を撫でる柘植の櫛

榎谷 孝子

片目して紅葉透かし見八雲の  
忌 垣内 静子

当季雑詠句

互選の句

【天位】

赤とんぼ造り酒屋は木蓋干す

高木みつ江

【地位】

秋澄むやペダルを踏みて小さ

き旅 中島千恵子

【人位】

それぞれの露の道来て朝市女

田中 君子

いくと歌胸底にあり野分吹く

黒川みつ恵

小鳥幸男選

【特選】

それぞれの露の道来て朝市女

田中 君子

魔女などになれぬ話や温め酒

数崎 清子

赤まんま泣く子を保母に預け

来し 下垣内町子

【佳作】

耳遠くなりし会話や鴉の声

野口 恒子

赤のまま真ん真ん中に白のま

ま 水口 諄子

四世代一つ家に在りななかま

ど 黒田登志子

唐辛子赤に傾く齡かな

山本 史子

無造作に千草活けたる唐の壺

栗田美由紀

◎高校生の部

飛騨神岡高等学校

【特選】

「もう泣くな」微笑む空に日

雷 二年 葛谷 里央

あの恋のかさぶたでできる秋の

空 二年 滝沢 佑佳

消しごむの欠けてしまへり雲

の峰 二年 川上まなみ

【入選】

ねこじやらしいじるあなたの

影法師 一年 細田 優花

足音で逃げる色鯉目で追ひぬ

一年 小野 若葉

高山西高等学校

【特選】

イチヨウ道黄金色の柱かな

三年 谷向 優也

雪の華白き光の一本道

二年 田中 佑哉

【入選】

あわてんぼう赤いもみじに積

もる雪 二年 沖本真紗穂

帰り道私を追い抜く赤とんぼ

三年 三塚かなな

飛騨高山高等学校

【特選】

強き者孤独に負けぬ案山子か

な 三年 山本 祐太

【入選】

愛しき娘松茸飯を食った

三年 嶋田 凜

アンケート結果  
あなたの好きな  
芭蕉の句は？



荒海や佐渡によこたふ天河

奥の細道

旅に病て夢は枯野をかけ廻る

笈日記

夏草や兵どもが夢の跡

奥の細道

山路来て何やらゆかしすみれ

草 野ざらし紀行

閑さや岩にしみ入蟬の声

奥の細道

「岡目（目）」

「らしさ」というものを大切にしたい。どこに行っても皆同じの似たようなものではうんざりする。

「高山らしさ」とはなんだろうか。これだけ世界的にもメジャーになった観光地高山を支えているものは、一体何なのだろうか。高山駅周辺のまちづくりが着々と進んでいる。駅の東と西をつなぐ自由通路もでき、西側には総合交流センターもできるといふ。高山の顔ともなる大事な地区だ。市民の知恵を絞らねばならない。

先ず駅舎そのものはどうなるのだろうか。世界的にも誇れるすばらしいものにして欲しいと思う。「らしさ」に向かつての新しい挑戦もあつていい。パリのエッフェル塔はパリ万博の後は壊されることになっていった。「らしくない」という批判を越えて残り、今はパリの象徴になっている。

市民文化会館もある駅西への自由通路の使用は、平成28年度中に。高山の将来がかかっている。

〈ガンモン毛筆〉

高山市文化芸術鑑賞事業



小原孝  
ピアノ詩集  
コンサート

NHK教育テレビ「あなたもアーティスト」指1本からはじめる！  
小原孝のピアノでポップスを弾こう♪で好評を博した  
小原孝の、自由闊達なピアノ演奏をお楽しみに！

好評販売中

平成24年 12月15日(土)

午後6時開場/午後6時30分開演

こくふ交流センター さくらホール(JR飛騨国府駅前)

チケット (一般)2,000円 (メセナメイト)1,700円

全席指定 (ジュニア)18才以下 500円 ※未就学児は入場不可

販売所 高山市民文化会館・国府社教窓口(こくふ交流センター2F)  
飛騨市文化交流センター

○主催 高山市 / (社)高山市文化協会

○問合せ (社)高山市文化協会(TEL.0577-34-6550)